

■目標設定・活動計画、自己評価

事務分類	目標設定・活動計画				自己評価	
	取組内容	目標	期待される効果	目標を達成するための具体的活動	結果	所見
1 広報・啓発	懸垂幕・横断幕・啓発看板の見直し	横断幕を廃止 (通常は3箇所掲示)	従来の横断幕(3箇所)からのぼり旗の掲出(30箇所)に切り替えを図り、掲出箇所を分散することで、より高い周知・啓発効果を期待できる。	横断幕の予算1本26,000円かける3本=78,000円の削減をし、のぼり旗に充てる。		
2 投票	投票所の数・場所・従事者数の見直し	従事者数の見直し	職員減少に伴う人材不足のカバー、事務従事者手当てコストの削減	1投票所あたり5名だった正規職員の従事者数(H19前回県議選)を、2名~3名にし、削減した人数の代わりに派遣パート職員を配置する。		
3 開票	目標時間の設定	70分で確定票 (PM9:00開始 PM22:10開票終了)	開票事務従事者が共通意識を持てる	事前説明会で目標時間及び全国効率ランキング等を呈示。		
	中間発表の廃止	中間発表の廃止	事務負担の軽減及びミス発生リスクを抑えることができる	県の速報計画があるため、中間速報が必須となっている。中間発表を廃止については今後、県へ要望する。		

■上記以外の目標設定・活動計画、自己評価

事務分類	目標設定・活動計画				自己評価	
	取組内容	目標	期待される効果	目標を達成するための具体的活動	結果	所見
1 開票	開票行程の見直し	開票所レイアウトを向上する	開票時間の短縮、事務負担の軽減	・開票所のすべての机の高さをそろえる ・机の並び方の角度等を調整し、票の進行がスムーズになるように配置		
2 開票	開票行程の見直し	点検系の整理	開票時間の短縮、事務負担の軽減、事務従事者手当てコストの削減	通常は第1点検、第2点検の2つであるところ、開票分類係と第1点検係を統合する。ただし、全セクションで第1点検係の確認作業を並行して行うことを必須とする。		
3 開票	開票行程の見直し	投票箱の確認作業と開票分類作業を同時進行する	立会人の票確認作業の効率化による開票時間の短縮	投票箱内の票を開票分類台へ出した後、投票箱を台の脇に配置。立会人が投票箱の前まで歩いて来て、箱内を確認する。(通常は立会人の元へ従事者が投票箱を持って行き、確認してもらっていた。)		
4 開票	開票行程の見直し	票束への立会人押印回数の効率化	立会人の票確認作業の効率化による開票時間の短縮	通常200票でまとめていたものを、県議選では500票を原則とし、立会人の押印回数の半減し、事務効率化が期待できる。 なお、今後は選挙の性質に応じて、200~500票の束にする。(例えば参議院は200票) また、500票だけでなく、100票などの個票表紙も用意し、状況に応じて票束を変える。		
5 開票	開票事務従事者数の見直し	従事者数の見直し (H19前回県議選115名→今回81名)	職員減少に伴う人材不足のカバー、事務従事者手当てコストの削減	開票所レイアウトの変更、点検系の整理、投票箱の確認等		